

第18章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2008年1月現在32地点で試掘調査及び発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壇墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺跡遺跡第9地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、土地所有者より2007年3月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。本地点は、1994年10月18日に農地改良（1m以上の盛土等）に伴う試掘調査を行ない、池跡とみられる黒色土堆積や土坑らしき範囲と、大量の焼土や炭化物を確認している場所のうち、北側の約半分にあたる。このため申請者と協議の結果、建物部分の地盤に基礎を補強するための杭を打ち込むことから建物部分の本調査を実施した。

本調査は2007年5月22日から24日まで行なった。試掘調査で確認されている溝部分について重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、溝を検出した。表土から縄文土器片、近世陶磁器等が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。



第47図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第35表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保579	1979.4.3～4.21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群Ⅰ
2	苗間東久保573	1982.4.1～4.3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群Ⅲ
3	苗間東久保581	1984.7.20～7.21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後346-1	1989.11.15～11.25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群Ⅹ
5	苗間374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群Ⅰ
6	苗間358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅰ
7	苗間東久保573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草～中期	調査会報告5集
8	苗間357-1	(1994.9.20～9.27)	615	宅地分譲	落し穴、根切溝	町内遺跡群Ⅳ
9	苗間353	(1994.10.18)、 2007.5.22～24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群Ⅳ、市内4
10	苗間356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	近世土壙墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	苗間352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡群Ⅳ
12	苗間35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡群Ⅴ
13	苗間314-2	(1996.1.8～1.29)	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文早～後期、陶磁器	町内遺跡群Ⅴ
14	苗間360-1,362-2	(1996.6.3～6.12) 1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	礫群3、落し穴1、溝4、ピット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群Ⅵ
15	苗間362-4・5	(1996.6.3～6.12) 1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群Ⅵ
16	苗間579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中期	町内遺跡群Ⅶ
17	苗間345-2・10	(1998.9.29～10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群Ⅷ
18	苗間345-3・4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝縄文後期土器、土師器	町内遺跡群Ⅸ
19	苗間神明後345-4	1999.8～9	703	分譲住宅	炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘立5、縄文早～晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告15集
20	苗間神明後351-1	(2001.10.26～10.29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群ⅩⅠ
21	苗間東久保591-3,592-7	(2001.11.19～11.20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅠ
22	苗間373-5・8, 377-5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
23	苗間592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
24	苗間神明後346-1・2の一部	(2004.8.30～8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
25	苗間339-1・2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群ⅩⅡ
26	苗間神明後354-2の一部	(2005.3.3～3.8) 2006.4.17～28,6.7～15	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	苗間神明後354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.23	696	新設道路築造 分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋甕2、土坑117、ピット127、溝1	市内遺跡群2
28	苗間字東久保719-7, 720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改築工事	溝2	市内遺跡群3
29	苗間570-1・2, 571-1・2,575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
30	苗間359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	茶毘跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
31	苗間字神明後342-14 一部	(2007.2.19)、 2007.2.19～3.5	171	個人住宅	住居跡1、炉穴1、土坑1、ピット26、縄文土器、石器	市内遺跡群4
32	苗間字神明後340-17, 342-10・15,	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ピット1、縄文土器	市内遺跡群4

(2) 遺構と遺物

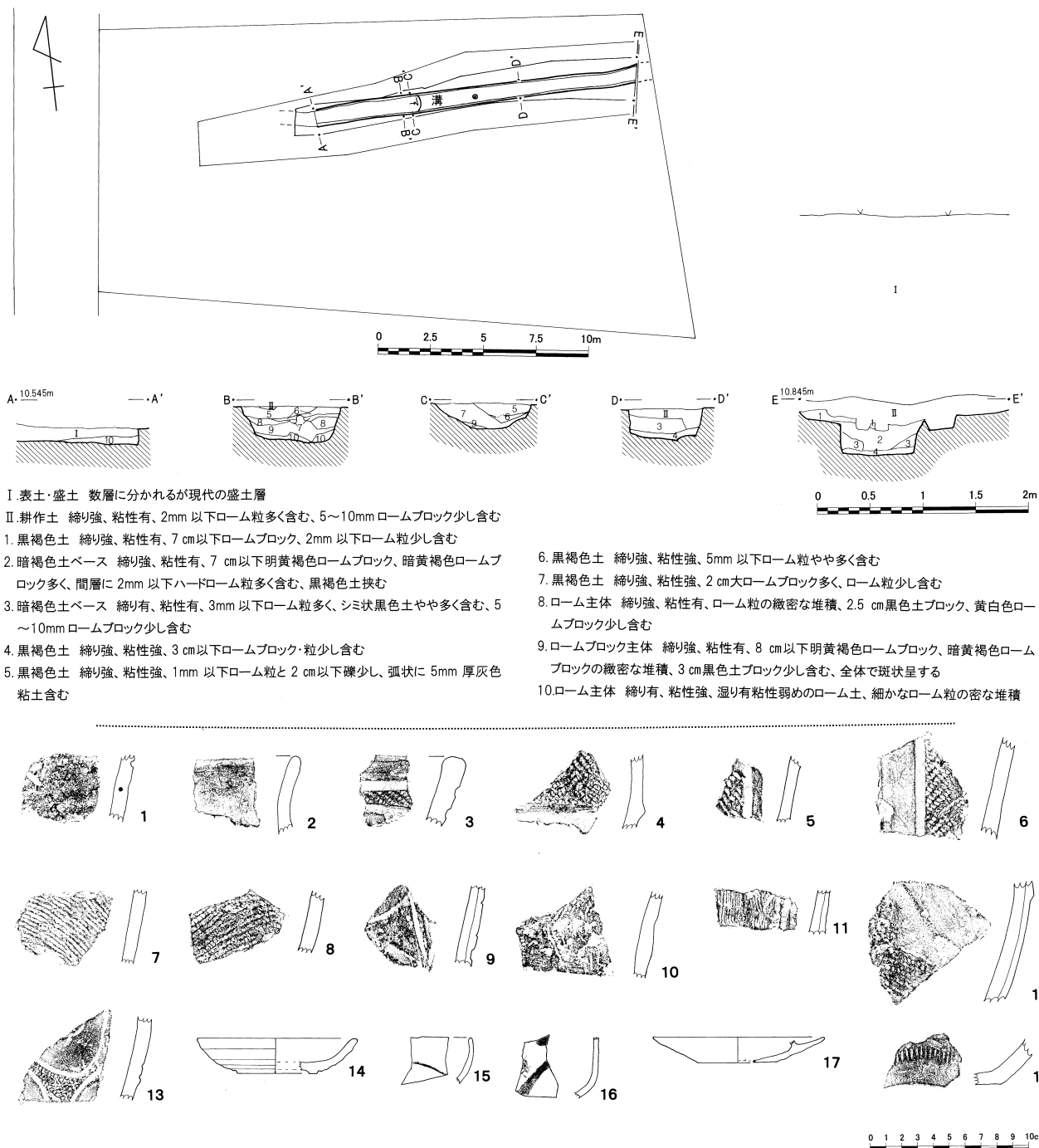
①溝

溝は東から西に傾斜する地形に沿って延びる。上幅74～94cm、下幅25～40cm深さは42.3cm、東端底と西端底の高低差は33.4cmを測る。

②出土遺物 (第48図)

1から18は全て溝の覆土層出土である。1は角押文と沈線を施し胎土に大量の金雲母を含む阿玉台式土器である。2は口縁部無文帯。3は沈線文とR L縄文、4は横位隆帯で胴部はL R縄文を施す。5・6は地文R L又はL R縄文に沈線の懸垂文間を磨消す。7は無節L r縄文、8は単節R L縄文を施す。9は沈線文を施す。10・11は木口状工具による蛇行条線文を施す。

12は地文R L縄文に微隆帯と磨消しを施す。13は沈線文の間にL R縄文と磨消しを施す。2、7、8は勝坂式から加曽利E式。3～6・9～11は加曽利EⅡ式。12、13は加曽利EⅣ式である。14は瀬戸・美濃系陶器の志野皿で全面に長石釉、口径・底径・高さは推定で10.2×5.1×2.3cm。15は肥前系磁器の皿か碗で、轆轤成形で内外面に染付けを施す。16は陶器の碗で、轆轤成形に外面に黒色の釉薬で施文。17は瀬戸・美濃系陶器の燈火受付皿で全面鉄釉し内外面上部に煤が付着、口径・底径・高さは推定で10.9×5×1.6cm。18は在地産の瓦質土器で内面回転撫で調整、外面スダレ状刻印文を施す。



第48図 浄禅寺跡遺跡第9地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

Ⅲ 浄禅寺跡遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年6月6日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部の西寄りに位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年8月7日から9月21日まで行なった。幅1.2~2mのトレンチを8本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、中・近世の掘立柱建物跡や井戸・土坑・

溝等の遺構を確認、陶磁器や縄文土器等が多数出土した。遺構確認面は地表面から約60~70cmの深さで、道路築造部分の掘削が地表面から1m以上に及び遺跡に影響を与えるため本調査を行なった。

本調査は2007年9月25日から11月6日まで、道路築造部分の調査を行ない、中・近世の掘立柱建物跡3軒、井戸15基、土坑15基、堀跡1本、溝17本を検出、陶磁器・板碑片・石製品・縄文土器・石器等多数の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。本調査の成果は第Ⅱ部第5章に掲載した。



浄禅寺跡遺跡第9地点本調査近景



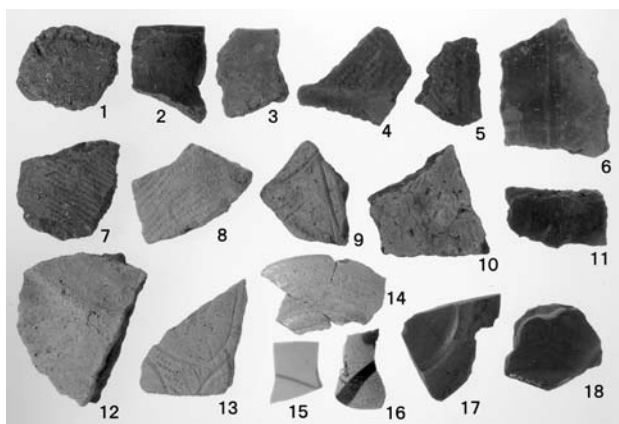
浄禅寺跡遺跡第9地点本調査表土除去風景



浄禅寺跡遺跡第9地点本調査溝



浄禅寺跡遺跡第9地点本調査溝土層



浄禅寺跡遺跡第9地点出土遺物No.1～18



浄禅寺跡遺跡第29地点地下式坑、ピット



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸1



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸2